

大学入学共通テストと新学習指導要領

※「第8回 夏の教育セミナー」に先駆けて高校教育や大学入試に関する情報を掲載します。



総合的な探究の時間「仰高ゼミ」の一場面。教員は生徒が選んだテーマや問題意識などを進路指導の参考にしている

学校推薦 総合型選抜に勝つ

広島県有数の進学校として知られ、高い理想と志を抱き、これからの社会に貢献できるリーダーの育成を目指す広島県立安古市高校(若狭種彦校長、生徒943人)。10年連続で国立大学合格者が2000人を超えるなど高い進学実績を維持している。「選抜することがかかっている」という価値観が生徒に根付き、学習面だけでなく部活動や学校行事、地域活動でも、その精神が発揮されているという。

広島県立安古市高校

学や九州大学などの難関大学や広島大学の合格者は48人。国公立大学の推薦型選抜の合格者は19人、総合型選抜は5人で、受験者の合格率は高かった。昨年度は新型コロナウイルスの影響で面接が中止になるなど頻りに試験内容が変更され、生徒や教員の負担は大きかったが、出願者、合格者とも旧AO入試の時代を含まないという時代を告げた。

「個別面談と進路検討会議を充実」(心豊かな人生の創造をめざし、高遠の理想を掲げ、を踏まえて、これからどんな人間になりたいか、リーダーとして社会にどう貢献していくかを発言し、理想の姿に近づけるために、今必要なことと進路について考えさせる。自分の長所や日々の教育活動で体験したこと、この意義、これから実現させたいことなどのメタ認知を促し、目的を持って高校生活を送れるようにしていく。そのための選抜方法が変更されても、大きく揺らぐことなく本番に臨むという。進路検討会議では、各担当が生徒一人一人の進路や将来像について

自信を持って語れる力を身に付けさせるように努めてきた。管理職を含めた複数人で、生徒の現状を語り合い、指導の方向性を検討する。教員が生徒の資質・能力や興味・関心などを見極める場としては、総合的な探究の時間「仰高ゼミ」も活用。探究活動で選んだテーマや問題意識も進路を考える参考にする。また2・3年次にクラス替えを行わないことで、生徒の特性をじっくり見られるよう強調した。

本連載では、各学校が取り組む推薦、総合型選抜入試に向けた指導などについて紹介する。

入試の検討会議提言、高校はどう見る

社会的格差広げぬ仕組み必要



石崎 規生 全国高等学校長協会 大学入試対策委員会委員長

「文科省の検討会議の提言をどう受け止めたか。高校の教育活動以外で取り組んだものも積極的に評価しようという姿勢を感じます。しかし、全国を見れば、さまざまな格差によって機会に恵まれない高校生がいて、これを考える。そうした方法がよいのか疑問です。勉強をすれば、誰でもチャンスがあると信じてやってみようというところから、志望する大学が最初から手の届かないところに行ってしまうことにならないか。社会が二極化して、大学入試が格差の反映される仕組みになってしまっているように感じます。」

石崎 規生 全国高等学校長協会 大学入試対策委員会委員長

「個別面談での英語の民間資格・検定試験の活用にしても、総合型選抜の推進にしても、入試における原則と例外が逆になっているような印象を受けます。例えばスポーツ推薦を多くするのは「これは例外」と思われて今までは納めてきましたが、こうした入試が主になってよいと信じているのか。幼稚園から英語を学び、中学校で英検準1級を取ったから大学入試では受験しなくてもいいという考えは、土壌が変わってしまっている。また主眼点を評価するにしても、さまざまな理由で機会に恵まれない生徒はたくさんいます。入試改革を「自由主義」に委ねるのかどうか。これは社会の在り方の問題でもあると思います。」

さらなる高大連携が鍵

「今回、改めて見送られた英語成績提供システムについては、どう考えていましたか。」「文科省の英語4技能評価フィードバックに委員として関わりましたが、4技能を測るという自体は、高校側としても賛成でした。ただ、試験は大学入試センターが開発してほしいという意見が高校側からは多く聞かれました。」

資格・経験でなく 学校の学び基盤に競争を

「それはもちろん必要で、高校も真摯に受け止めるべきだと思います。学力の保障は高校だけの問題ではありません。中学校や小学校の教育にも関係があります。当然、入学を認めた大学も責任を持たなければならないと思います。そうした意味では、高校と大学の連携はますます重要になるでしょう。」

受験生の負担増懸念

「令和7年度入試から共通テストでは新科目が追加されますが、高校にとって不安は何ですか。」「一番は受験生の負担増です。顕著なのは「情報」ですが、教

今後の大学入試の在り方について、文科省の検討会議が1年半に及ぶ議論の結果を提言にまとめた。焦点となった英語の民間資格・検定試験や記述式問題は導入を断念し、個別試験での利用を促進する内容だ。高校側は提言をどう受け止めたのか。全国高等学校長協会の石崎規生・大学入試対策委員会委員長(東京都立校修館中等教育学校校長)に聞いた。

「先ほどともいいましたが、社会的格差を反映し、拡大させる入試にならないよう仕組みが必要だと思います。英語成績提供システムの出題ができた時、受験時期を『高校3年の2回まで』としたのは、そうすることで公平性を保とうとしたからです。また、学力試験が学習指導要領に準拠することでもありますが、少なくとも一般選抜は高校で学ぶこと以外の資格や経験を優遇するのではなく、高校で学ぶことをベースに競争できるようにしてほしいと思います。」

「不安とは別に、全ての国立大学が6教科8科目のようになれば、学力を伸ばすことができないという懸念も出ています。現在はコロナ禍で国立大学志向が高まっていますが、今後、私立大学との競争の中で、アラカルト方式を導入した過去を繰り返す可能性はないかといえます。」

「個別面談の実施は、生徒に評価結果をフィードバックし、それによって確かな学びにつなげるという意味で有意義なことだと思います。検討会議は当面、入試には使わないとしていますが、個人的には調査書へ記載した方がよいと考えています。新たに始めるのに入試に使わないとなれば、観点別評価はやらなくてもいいという限ったメッセージにもなりかねません。もちろん、これも主体性の評価と同じで、大学側がどう利用したいかははっきり示すことができないかと思っています。」

「出題科目もこれまで『数学Ⅱ・B』だったのが『数学Ⅱ・B・C』になります。国立大学が『情報』を出願するのかどうか、また分科を8科目に5教科7科目から6教科8科目に、しかも数学の内容も増えたのは高校生にとって大きな負担増です。高校現場では、教師同士が相談し、教科で宿題を出す量を調整することがあります。入試も一緒で、あれもこれも測りたいのかもしれないですが、勉強する側の負担をトータルで考慮してほしいと思います。」

「生徒が主体的に学ぶ授業を行うにはどうしたらいいか日々悩んでいましたが、先生のお話で視野のちががさつきりと開けていくような感覚。(東京都私立・英語)」

「オンラインセミナーだったので、興味のある内容を自分に合った時間帯に視聴できた。大学入学共通テストに対応するための授業展開方法の1つを学ぶことができた。(千葉県立・数学)」

「今年進路指導部に配属され今まで研修機会がなかったのが、オンラインセミナーは充実した時間になりました。(鹿児島県私立・数学)」

「ニュースなどでは知らない細かい部分の説明が聞いて良かった。(北海道私立・英語)」

「文科省による説明が丁寧でわかりやすい。質疑応答で学校現場が抱く疑問点についても知ることができた。(徳島県・教育委員会)」

第8回 夏の教育セミナー

大学入学共通テストと新学習指導要領

2021年実施

参加無料

好評受付中! お申し込みはWEBで!

お申し込みはこちら

過去のセミナーに参加された先生の声

最新情報は順次公開 summer-seminar.com

検索

主催: 日本教育新聞社 / 株式会社 ナガセ (東進ハイスクール・東進衛星予備校)

後援: 文部科学省、各都道府県教育委員会 (ほか(申請中・予定))

全国の高等学校の先生を対象に 今年も、WEBセミナーで開催!

1回の申込で、両日程に参加できます (※7/28現在、敬称略)

[1] 8/9月・休~15日

テーマ: 大学入学共通テスト

- ① 基調講演 「大学入学共通テストの振り返りと展望(仮)」
文部科学省 高等教育局 大学振興課大学入試室 前田 幸宣 室長
- ② 授業実践 「大学入学共通テスト問題から見た思考力を育てる授業実践」
(英語、数学、国語、理科、地歴公民、特別講演)

英語: 武田 誠 (東北学院中学校・高等学校 教諭)
数学: 鶴迫 貴司 (東山中学・高等学校 教諭)
国語: 齋藤 祐 (中央大学附属中学校・高等学校 教諭)

化学: 吉村 大介 (茨城県立並木中等教育学校 教諭)
日本史: 高橋 哲 (渋谷教育学園幕張中学校・高等学校 教諭)
特別講演(英語): 武藤 一也 (東進ハイスクール・東進衛星予備校 講師)

武田 誠 教諭
鶴迫 貴司 教諭
齋藤 祐 教諭
吉村 大介 教諭
高橋 哲 教諭
武藤 一也 講師

[2] 9/18土~26日

テーマ: 新学習指導要領

- ① 基調講演 「新学習指導要領と観点別学習状況の評価 徹底解説(仮)」
文部科学省 初等中等教育局 教育課程課教育課程企画室 石田 有記 室長
- ② 授業実践 「観点別評価に繋がる授業づくり」 (英語、数学、国語、探究、情報、特別講演)

英語: 山本 崇雄 (新潟県文化小学校・高等学校 教諭)
数学: 堀内 陽介 (広島尾道中学校・高等学校 教諭)
国語: 河川 竜行 (渋谷教育学園渋谷中学校・高等学校 教諭)

探究: 酒井 淳平 (立命館宇治中学校・高等学校 教諭)
情報: 中野 由章 (工学院大学附属中学校・高等学校 校長)
特別講演(英語): 安河内 哲也 (東進ハイスクール・東進衛星予備校 講師)

山本 崇雄 教諭
堀内 陽介 教諭
河川 竜行 教諭
酒井 淳平 教諭
中野 由章 校長
安河内 哲也 講師

③ 全国の主要大学による大学案内や入試情報解説